人類の出現と文明

名前

問1　紀元前1600年ごろに成立した古代中国の王朝である殷（いん）において、精巧な青銅器とともに使われていた、現在の漢字のルーツとされる文字を何といいますか。（2016年 愛知県公立入試 類似）

1. 甲骨文字
2. くさび形文字
3. 象形文字
4. ハングル

問2　古代メソポタミア文明において、川のほとりで得られる粘土を板状にし、そこに葦（あし）などの茎の先を押し当てて刻まれた、独特の形状を持つ文字を何といいますか。（2024年 奈良県公立入試 類似）

1. アルファベット
2. 象形文字
3. 楔形文字
4. 甲骨文字

問3　18世紀後半から、オーストラリアがイギリスの支配下に置かれ、開拓や資源の獲得の拠点となっていた歴史的な状態を指す用語として、最も適切なものを選択してください。（2016年 山口県公立入試 類似）

1. 委任統治領
2. 保護国
3. 自治領
4. 植民地

問4　日本で最初の元号とされる「大化」が使われ、大化の改新などの国づくりが進められていた7世紀の西アジアにおいて、ムハンマドによって新しく開かれた宗教の名称を答えなさい。（2019年 千葉県公立入試 類似）

1. 仏教
2. キリスト教
3. イスラム教
4. ヒンドゥー教

問5　7世紀にアラビア半島のムハンマドが、唯一の神であるアッラーからの啓示を受けたとして開いた、神への絶対的な服従を説く宗教は何か、次の中から選びなさい。（2025年 千葉県公立入試 類似）

1. 儒教
2. イスラム教
3. 仏教
4. キリスト教

問6　古代ギリシャの歴史家ヘロドトスが「エジプトはナイルのたまもの」という言葉を残したように、ナイル川はエジプト文明の発展に不可欠な存在でした。ナイル川が農業の基盤として果たした役割について、最も適切な説明を選んでください。（2018年 大阪府公立入試 類似）

1. 一年中雨が多いため、川の水位が常に一定に保たれ、二期作や三期作が可能になった。
2. 川の流れが非常に急であったため、大規模な水車を設置して灌漑施設を動かす動力源となった。
3. 川の水の塩分濃度が高かったため、周辺の土地で塩の採取が盛んになり、交易の資金源となった。
4. 定期的に氾濫することで、上流から農業に適した肥沃な土を運び、土地を豊かにした。

問7　古代中国の殷王朝では、政治上の重要な決定を行う際に神の意思を問う占いが行われていました。この占いの結果などを記録するために、亀の甲羅や動物の骨に刻んで使われた文字を何と呼びますか。（2025年 大阪府公立入試 類似）

1. 象形文字（ヒエログリフ）
2. 楔形文字
3. 甲骨文字
4. アルファベット

問8　日本の歴史における出来事や文化と、それが属する時代の組み合わせとして最も適切なものはどれですか。（2025年 岩手県公立入試 類似）

1. 朝鮮への兵の提出に際して多くの陶工が連れてこられた ― 鎌倉時代
2. 勘合を用いて明と貿易が行われた ― 奈良時代
3. 正倉院に宝物が納められ天平文化が栄えた ― 室町時代
4. 渡来人によって須恵器の技術が伝えられた ― 古墳時代

問9　18世紀後半から20世紀前半にかけてオーストラリアを統治し、メルボルンの街並みに見られるような石造りの建築物やキリスト教の教会といった、ヨーロッパの都市に見られるような景観を形成する要因となった国はどこですか。（2026年 奈良県公立入試 類似）

1. アメリカ合衆国
2. オランダ
3. イギリス
4. ポルトガル

問10　紀元前16世紀ごろに中国の黄河流域で栄えた殷王朝では、亀の甲羅や動物の骨に鋭い道具で文字を刻み、政治の重要な事柄を決定していました。現在の漢字の起源とされるこの文字を何といいますか。（2017年 大阪府公立入試 類似）

1. 甲骨文字
2. 金文
3. 象形文字
4. 楔形文字

問11　古代文明は、農耕に適した大河の流域で発展しました。現在のパキスタン付近を流れる河川の流域で成立し、モヘンジョ・ダロなどの計画的な都市を築いた文明として正しいものを次の中から選びなさい。（2025年 愛知県公立入試 類似）

1. インダス文明
2. エジプト文明
3. 黄河文明
4. メソポタミア文明

問12　群馬県にある岩宿遺跡の発見は、日本史の研究において非常に重要な意味を持っています。この遺跡が発見されるきっかけとなった出来事と、それによって明らかになった当時の状況の説明として最も適切なものはどれですか。（2023年 京都府公立入試 類似）

1. 人物や動物をかたどった埴輪が大量に出土し、強力な権力を持つ王が存在していたことが判明した。
2. 相沢忠洋が火山灰の地層から打製石器を発見し、更新世の日本列島に人が居住していたことが証明された。
3. 「漢委奴国王」と刻まれた金印が発見され、当時の日本が中国の王朝と交流していたことが判明した。
4. 大規模な水田遺構が発見され、縄文時代から本格的な稲作が始まっていたことが証明された。

問13　紀元前2500年ごろからインダス川流域で栄えた古代文明では、石で作られた四角い印章に動物の図像とともに独自の文字が刻まれていました。この文字に関する説明として、他の文明の文字と比較した際の特徴を次の中から選びなさい。（2025年 愛知県公立入試 類似）

1. フェニキア人によって考案され、後のアルファベットの起源となった。
2. エジプトの象形文字やメソポタミアのくさび形文字とは異なり、現在も解読されていない。
3. 亀の甲羅や動物の骨に刻まれた文字であり、現在の漢字の原型となった。
4. 粘土板に刻まれることで記録が残り、現在ではその内容の多くが解明されている。

問14　アフリカ大陸の北東部、地中海に注ぐ大河の流域で発展した古代文明について、この大河の名前と、この文明で使われていた文字の組み合わせとして正しいものはどれですか。（2026年 茨城県公立入試 類似）

1. ティグリス・ユーフラテス川 ― 象形文字
2. ナイル川 ― 楔形文字
3. ナイル川 ― 象形文字
4. ティグリス・ユーフラテス川 ― 楔形文字

問15　古代エジプトにおいて、天体観測が発達し「太陽暦」が作られた背景として、ナイル川の自然環境と農業の関係から説明したものとして最も適切なものはどれですか。（2026年 茨城県公立入試 類似）

1. ナイル川の上流にあるピラミッド建設現場へ、石材を運ぶための増水期を知るため
2. ナイル川の交易路が地中海とつながる時期を特定し、麦の輸出額を増やすため
3. ナイル川の急激な水量の減少を予測し、砂漠化を防ぐための灌漑施設を稼働させるため
4. ナイル川が定期的に氾濫する時期を予測し、農作業の計画を立てる必要があったため

答え合わせ・解説

問1	答え 1 甲骨文字	殷では、亀の甲羅や牛の肩甲骨などを用いて、国の重要な行事や農作物の収穫を占っていました。その占いの結果を刻むために使われた文字が甲骨文字であり、これが長い年月をかけて進化し、現在の漢字となりました。
問2	答え 3 楔形文字	ティグリス川・ユーフラテス川流域のメソポタミアでは、石材やパピルスが少なかった一方で、質の良い粘土が豊富に得られました。そのため、乾く前の粘土板に尖った道具を押し当てて記録する手法が発達しました。その刻み跡が「くさび」の形に見えることから、この名称で呼ばれています。
問3	答え 4 植民地	1788年にイギリスの船団がシドニーに到着して以降、オーストラリアはイギリスの流刑地や定住地として開発されました。このように、ある国が自国の主権を国外に広げ、軍事的・経済的に支配した土地を植民地と呼びます。当初は先住民であるアボリジニの居住地でしたが、イギリスはこれらを「無主の地」として支配を強めました。
問4	答え 3 イスラム教	7世紀の西アジアでは、ムハンマドが唯一神アッラーの教えを説くイスラム教を創始しました。この時期の日本は飛鳥時代にあたり、聖徳太子の政治や大化の改新（645年）が行われていた時代と一致します。シャカによる仏教やギリシャのポリス形成は紀元前の出来事であり、イエスによるキリスト教の成立は1世紀のことです。
問5	答え 2 イスラム教	ムハンマドがメッカで開いたこの宗教は、唯一神アッラーを信仰し、その教えは聖典「コーラン」にまとめられています。ムスリムと呼ばれる信者は、礼拝や断食など、生活全般において神への服従を実践することを重んじます。
問6	答え 4 定期的に氾濫することで、上流から農業に適した肥沃な土を運び、土地を豊かにした。	ナイル川は毎年決まった時期に氾濫を繰り返しました。この氾濫によって上流から栄養分を豊富に含んだ土砂（肥沃な土）が下流へと運ばれ、乾燥地帯であるエジプトでも安定した農業を行うことが可能になりました。この豊かな農業生産力が、巨大なピラミッドの建設や国家の形成を支える基盤となりました。
問7	答え 3 甲骨文字	紀元前16世紀頃に成立した殷（商）では、王が国家の行事や戦争の成否を占うため、亀の甲羅や牛の肩甲骨を焼き、そのひび割れの形で吉凶を判断しました。そこに刻まれた文字は、現在の漢字の原型となったことで知られています。粘土板に刻まれたメソポタミアの楔形文字や、エジプトの象形文字とは成立の背景が異なります。
問8	答え 4 渡来人によって須恵器の技術が伝えられた ― 古墳時代	渡来人によって須恵器の作製技術が伝えられたのは古墳時代です。正倉院や天平文化は奈良時代、勘合貿易は室町時代、朝鮮侵略にともなう陶工の来日は安土桃山時代の出来事となります。
問9	答え 3 イギリス	オーストラリアは18世紀後半からイギリスの植民地となり、入植が進められました。その過程で、宗主国であるイギリスを中心としたヨーロッパの文化や建築技術が持ち込まれたため、現在もメルボルンなどの都市部には重厚な石造りの建物や教会が数多く残されています。
問10	答え 1 甲骨文字	殷王朝では、王が国家の重要な方針を決める際に、亀の甲羅や牛の骨を焼いてそのひび割れの形を見ることで神の意志を問う「占い」を行っていました。その結果を記録するために刻まれた文字が甲骨文字であり、これがのちの漢字の原型となりました。動物の骨や亀の甲羅（甲）を用いたことが名称の由来です。
問11	答え 1 インダス文明	インダス文明は、現在のインドの国名の語源ともなったインダス川の流域で発展しました。この文明では、レンガを用いた整然とした街並みや下水道を備えた都市遺跡が見つかっています。他の選択肢にあるメソポタミア文明はチグリス・ユーフラテス川、黄河文明は黄河、エジプト文明はナイル川の流域でそれぞれ発生した文明です。
問12	答え 2 相沢忠洋が火山灰の地層から打製石器を発見し、更新世の日本列島に人が居住していたことが証明された。	岩宿遺跡の発見以前は、日本列島の歴史は縄文時代から始まると信じられていました。相沢忠洋が関東ローム層という更新世（氷河時代）に堆積した地層から打製石器を見つけたことで、土器出現前の古い時代に人類が活動していた証拠となりました。他の選択肢にある水田は弥生時代、金印や埴輪はそれ以降の時代の特徴です。
問13	答え 2 エジプトの象形文字やメソポタミアのくさび形文字とは異なり、現在も解読されていない。	インダス川流域で栄えたインダス文明では、独自のインダス文字が使用されていました。この文字は印章などに刻まれて発見されていますが、ロゼッタ・ストーンのような解読の鍵となる資料が見つかっていないため、現在も解読には至っていません。これに対し、メソポタミア文明のくさび形文字や中国の甲骨文字（漢字の原型）などは解読が進んでいます。
問14	答え 3 ナイル川 ― 象形文字	アフリカ北東部を流れるナイル川の定期的な氾濫は肥沃な土壌をもたらし、エジプト文明の発展を支えました。この文明では、王（ファラオ）の権威を誇示したり記録を残したりするために、ヒエログリフとも呼ばれる「象形文字」が使われました。楔形文字は、メソポタミア文明で使用された文字です。
問15	答え 4 ナイル川が定期的に氾濫する時期を予測し、農作業の計画を立てる必要があったため	古代エジプトでは、ナイル川が毎年ほぼ決まった時期に氾濫し、周囲に肥沃な土壌を残していく性質を利用して農業が行われました。この氾濫の時期を正確に知ることは、種まきなどの農作業の予定を立てる上で不可欠だったため、天体観測に基づいた太陽暦が発達しました。ピラミッドは王の墓であり、建設と暦の関係はこの選択肢の文脈には当てはまりません。